遠隔授業によるキャリア教育の実践：テキストマイニングによる感想の分析

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2022-02-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 髙松, 直紀 メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4807

遠隔授業によるキャリア教育の実践
―テキストマイニングによる感想の分析―

学芸学部　ライフプランニング学科　髙松　直紀

要旨：本研究は、A 女子大学で遠隔授業によるキャリア教育を受講した女子大学生の感想をもとに、その教育効果を検証し、教育効果を高める手がかりと遠隔授業によるキャリア教育の課題を見出すことを目的とした。その結果、研究対象科目の到達目標は、概ね達成されていた。教育効果を高める手がかりとして、教材は講義動画や視覚的にイメージできるように工夫した電子資料など複数媒体を用いること、反復学習できる環境を整備すること、授業課題の作成に一定程度の時間を設定しておくことなどが考えられた。遠隔授業によるキャリア教育の課題は、教員やクラスメイトとの交流不足による不安感、発表の機会がないことやクラスメイトの意見が聞けず、クラスメイトからの気づきが少ないことなどがあげられた。

キーワード：遠隔授業、キャリア教育、教育効果、テキストマイニング

背景と目的

2019 年 12 月に初めて新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19 と示す）の症例が確認され、COVID-19 は瞬く間に世界中に広がりパンデミックを引き起こした。2021 年時点でも収束の兆しが見えず、日常生活におけるさまざまな場面で活動の制限がなされている。

COVID-19 の拡大は、キャンパスの閉鎖や授業開始の延期など大学教育にも大きな影響を及ぼし、これまで対面で実施されてきた授業形態の変更を余儀なくされた。そのような状況の中、多くの大学で実施されたのが遠隔授業である。

遠隔授業とは、文部科学省（2020a）よると「多様なメディアを高度に利用して行う授業」であり、「テレビ会議システム等を利用した同時双方向の遠隔授業や、オンライン教材を用いたオンデマンド型の遠隔授業を自宅等にいる学生に対して行うこと」と定義されている。テレビ会議システムを用いた遠隔授業の例として「テレビ会議システムを利用して講義をリアルタイムに配信し、学生は教室以外の場所（自宅を含む。）において、PC や携帯電話からインターネットに接続し受講。テレビ会議システムによって、教員と学生が、互いに映像・音声等による質疑応答や意見交換を行う」ことが示されている。一方で、オンライン教材（MOOC 等）を用いた遠隔授業の例としては「スライド資料や講義形式の動画等を教材として、e-learning システム等を準備し、学生は教室以外の場所（自宅を含む。）において、PC や携帯電話からインターネットに接続し、随時又は期限が設定されている場合は、当該期限内に受講。学生からの課題提出や質問の受付及び回答、学生間の意見交換等についても、インターネットを通じて行う」ことが示されている（文部科学省，2020a）。

大学おける授業の実施状況は、文部科学省（2020b）によると、2020 年 7 月 1 日時点での調査では、約 6 割の大学等で対面授業と遠隔授業の併用がなされた。また、文部科学省（2021）では、2021 年前期に全面対面で授業を実施すると回答した大学等は 36.4% であり、多くの大学等で対面授業と遠隔授業の併用が継続している。では、ウィズコロナ、ポストコロナ時代に向けた高等教育の在り方について、どのように考えられているのだろうか。

2018 年度から 2022 年度における国の教育政策を定めた文部科学省（2018）では「高等教育段階において、教育の質向上や大学の知の国内外への発信の観点から、多様なメディアを活用した遠隔授業や MOOC による講義の発信等、ICT を利活用した教育を推進する」とされており、COVID-19 の拡大以前から大学における ICT を利活用した教育の推進が提唱されている。また、日本経済団体連合会（2021）は、COVID-19 収束後における大学等の授業の在り方について、対面授業とオンライン教育の利点を活用したリモート授業の組み合わせによるハイブリッド型教育への流れは不可逆的であり、対面と

リモートによるハイブリッド型教育の常態化を前提に、DX（デジタル革新）でより多彩で効果的な学修機会を創出・提供し、質の高い教育を実現すべきであると提言している。

これまで述べたとおり、昨今の社会状況の変化を踏まえ、ポストコロナ時代に向けて、高等教育の授業の在り方は大きな転換期を迎えている。2013 年の大学設置基準改正に伴い、多くの大学で実施されているキャリア教育も遠隔による授業の質的向上が求められることと考えられるが、現在のところ遠隔授業によるキャリア教育の事例研究は十分であるといえない。

そこで本研究は、A 女子大学で遠隔授業によるキャリア教育を受講した女子大学生の感想をもとに、その教育効果の検証し、教育効果を高めるための手がかりと遠隔授業によるキャリア教育の課題を見出すことを目的とする。

方法

A 女子大学の遠隔授業によるキャリア教育

A 女子大学では、学士課程基幹教育科目内にキャリア教育科目を設置し、低学年次から段階的にキャリア教育を行っている。本研究の調査を実施した 2021 年度前期は、COVID-19 感染拡大防止の観点から、インターンシップ科目を除くすべてのキャリア教育科目が遠隔授業となり、その実施方法は、オンライン教材を用いたオンデマンド型の遠隔授業（文部科学省，2020a）である。具体的には、A 女子大学の遠隔授業によるキャリア教育科目は、LMS（Learning Management System）を使用し、アップロードされた各回の講義動画と科目指定の教科書、授業の進め方や教科書の補足的な解説を示した PDF 資料（以下、補足資料と示す）の 3 種類を用いて、指定期限までに授業課題を行い提出するものである。なお、授業に関する質問等は、随時 LMS の掲示板機能を使用して個別に受付け、担当教員が回答を行う。

本研究は、A 女子大学の遠隔授業によるキャリア教育科目「キャリア開発」（以下、本科目と示す）で実施したものであり、その授業計画を表 1 に示す。

表 1　キャリア開発の授業計画

授業回	授業計画	授業回	授業計画
第 1 回	オリエンテーション	第 9 回	女性のキャリアデザイン
第 2 回	労働の基礎知識①	第10回	キャリアプランを考える①
第 3 回	労働の基礎知識②	第11回	キャリアプランを考える②
第 4 回	社会の出来事を知る	第12回	キャリアプランを考える③
第 5 回	社会の出来事を理解する	第13回	キャリアプランの発表資料作成①
第 6 回	発表資料の作成①	第14回	キャリアプランの発表資料作成②
第 7 回	発表資料の作成②	第15回	授業の総括
第 8 回	働くために必要な力を考える		

本科目は、A 女子大学の 2 年生を対象としたキャリア教育科目であり、①働くうえで必要な労働の基礎知識や個人のキャリアを取り巻く就職環境について理解すること、②課題を発見し、それを分析して、適切な計画を立ててその課題の解決策を提案すること、③自己の特徴と働く意義を理解し、多様な生き方に関するさまざまな情報を適切に取捨選択・活用しながら主体的に判断し、キャリアプランを立てることの 3 つを科目の到達目標としている。

具体的な授業内容として、第 2 回、第 3 回の授業では、労働基準法や労働契約法といった労働法の基礎知識と新規学卒者を取り巻く就職環境について理解を深める学習を行う。

図 1　キャリアプランシート

第4回から第7回の授業では、働くことに関する社会の出来事について各自でテーマを決定し、それについて調査を実施する。また、調査した内容をPowerPointで発表資料としてまとめ、さらに、個人発表を想定した発表原稿の作成を行う。

第8回、第9回の授業では、経済産業省が提唱した社会人基礎力などから社会で働くために必要な力を考え、また、女性の働き方に関連するテーマなどを取り上げ、女性のキャリアデザインについて理解を深める。

第10回から第14回の授業では、これまでの学習内容を踏まえて大学卒業までの期間を中心としたキャリアプランについてキャリアプランシート（図1）を使用して立案していく。そのプロセスとして、まず、自分の長所や短所、価値観などを具体的なエピソードで表現しながら、現在の自分を客観的に理解することから始める。次に、卒業後のなりたい自分について、働く視点とプライベートを充実させる視点からイメージし、それらを実現させるための目標を設定したうえで、目標達成のための具体的な方策と達成期限を設定することから、キャリアプランを作成するものである。

調査対象と調査内容

調査対象は、2021年度前期に実施された本科目の履修生であり、第15回授業において無記名でのWeb調査を実施した。Web調査は、自由記述式質問で構成し、遠隔授業としての「キャリア開発」で学んだこと（以下、本科目で学んだことと示す）、遠隔授業としての「キャリア開発」の良い点（以下、本科目の良い点と示す）、遠隔授業としての「キャリア開発」の改善点（以下、本科目の改善点と示す）の3つを尋ねた。

調査の回答にあたり調査対象者には、調査目的および調査協力の撤回方法、調査協力の撤回や回答内容により成績評価等に一切の不利益が生じないこと、個人情報保護等について講義動画および配布資料で説明し、同意を得たうえで実施した。

分析方法

本研究では、本科目の履修生のうち自由記述式質問に回答した132名を分析の対象とした。自由記述式質問の回答（以下、自由記述文と示す）は、テキストファイル化した後、樋口耕一によって開発されたテキスト型データの計量的分析を目的としたフリーソフトウェアKH Coder3を用いて計量テキスト分析を行った。計量テキスト分析とは、計量的分析手法を用いてテキスト型データを整理または分析し、内容分析を行う方法（樋口, 2020）であり、本研究は以下方法で分析を行った。

自由記述文の全体像の把握とグループの分類

自由記述文の頻出語を確認するために抽出語リストを作成した後、抽出語の関連性を把握するために共起ネットワーク分析を実施した。共起ネットワーク分析とは、テキストデータから関連の強い語を線で結びネットワークを描くものである（樋口, 2020）。また、共起関係の強さ（coefficient）は線の濃さで分析できることも特徴である。形態素解析（テキストを意味のある最小単位に分割して、それぞれの品詞を判別し解析を行うこと）は、KH Coder3内の茶筌を使用し、強制抽出語を設定するなど前処理を行った。共起ネットワークにおける共起関係の描画数はすべて60とし、最小出現数4回以上の共起の程度が強い語を線で結んだ共起ネットワークを作成した。

共起ネットワーク分析によって検出されたグループについて、それぞれのグループにみられる頻出語と自由記述文のデータをもとに命名を行った。

結果

自由記述文の形態素解析による計量テキスト分析

抽出語リスト　自由記述文である本科目で学んだこと、本科目の良い点、本科目の改善点、それぞれについてKH Coder3を用いて形態素解析を行った。

形態素解析を行うにあたり、本科目で学んだことの自由記述文のうち「キャリアプランを立てる」や「キャリアプランシートの作成」などキャリプランを作る意味を表現する言葉は「キャリアプランの作成」に、「学生生活」は「大学生活」にそれぞれ統一するなどの前処理を施した。また、本科目のよい点の自由記述文のうち「周りの人」や「他の受講生」など同じクラスの人を表現する言葉は「クラスメイト」に、「配布資料」など授業の進め方や教科書の補足的な解説を示した補足資料を表現する言葉は「補足資料」に統一するなど前処理を施した。さらに、本科目の改善点の自由記述文のうち「遠隔」や「オンライン授業」など遠隔授業を表現する言葉は「遠隔授業」にするなど、同じ意味を表現する言葉を統一する前処理をそれぞれに施した。

その結果、総抽出語は、本科目で学んだことが1536語、本科目の良い点が1231語、本科目の改善点が1200語であった。それらのうち、出現数4回以上の頻出語をリスト化した。それぞれの抽出語リストを表2に示す。

表２　抽出語リスト（出現数４回以上）

本科目で学んだこと

抽出語	出現数	抽出語	出現数
自分	101	就く	9
キャリアプラン	56	改善案	8
考える	54	書く	8
作成	39	身に付いた	8
将来	34	PowerPoint	7
社会	28	感じる	7
学ぶ	26	機会	7
明確	25	情報	7
知る	19	発表資料	7
長所	19	興味	6
目標	18	就職活動	6
出来事	17	夢	6
調査	17	労働基準法	6
理解	17	活かす	5
働く	16	見つめる	5
学習	15	向き合う	5
具体的	14	持つ	5
思う	14	詳しい	5
短所	14	大切	5
労働	14	大切さ	5
職業	13	知識	5
必要	13	プレゼンテーション	4
基礎知識	12	価値観	4
計画	11	課題	4
今	11	授業	4
大学生活	10	深い	4
能力	10	不安	4
立てる	10		

本科目のよい点

抽出語	出現数	抽出語	出現数
自分	76	学習	9
授業課題	63	自宅	9
時間	53	丁寧	8
ペース	38	見る	7
講義動画	34	集中	7
受講	31	調べる	7
取り組む	30	都合	7
考える	22	有効	7
好き	19	クラスメイト	6
思う	19	活用	6
感じる	17	気にせず	6
何度も	15	一人	5
見直す	15	確認	5
説明	13	授業	5
補足資料	13	授業時間	4
理解	11	周り	4
遠隔授業	10	力	4
進める	10		

本科目の改善点

抽出語	出現数	抽出語	出現数
クラスメイト	38	グループワーク	7
思う	30	授業	7
プレゼンテーション	28	発表原稿	7
発表	26	不安	7
授業課題	24	気軽	6
発表資料	24	対面授業	6
質問	23	大変	6
感じる	22	提出	6
作成	20	難しい	6
少し	19	プレゼンテーション能力	5
機会	15	時間	5
実際	15	取り組む	5
聞く	15	アドバイス	4
自分	14	キャリアプラン	4
PowerPoint	13	意見交換	4
作る	13	学ぶ	4
意見	12	講義	4
困難	12	参考	4
先生	12	情報交換	4
残念	11	多い	4
遠隔授業	10	直接	4
見る	10		

抽出語のうち、本科目で学んだことで最も出現数が多かった語は「自分」が 101 回であり、続いて「キャリアプラン」が 56 回、「考える」が 54 回であった。また、本科目のよい点では「自分」が 76 回と最も多く、続いて「授業課題」が 63 回、「時間」が 53 回であった。さらに、本科目の改善点では「クラスメイト」が 38 回と最も多く、続いて「思う」が 30 回、「プレゼンテーション」が 28 回という結果が得られた。

本科目で学んだことと抽出語の関係　本科目で学んだことの自由記述文について共起ネットワーク分析（図２）を行った。その結果、８つのグループが検出され、それぞれの頻出語の共起関係と自由記述文のデータから以下のように命名した。

（1）キャリアプランによる目標の明確化

第１グループでは「自分」「キャリアプラン」「考える」「作成」「将来」「明確」「目標」などの語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「キャリアプランの作成で、自分の将来について、しっかりと考えることができるようになりました」「大学生活を中心としたキャリアプランの作成をとおして、夢を叶えるために必要なことが明確になり目標ができたことで、具体的な取り組みを考えることができるようになったことです」などがあり、キャリアプランの作成から大学生活における目標が明確化されたことに関する記述がみられた。これらのことから、本グループを「キャリアプランによる目標の明確化」と命名した。

（2）社会で必要な能力や知識

第２グループでは「必要」「能力」「知識」の語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「社会で必要な能力や知識を知ることができました」「労働環境について調査したことから、社会で働くために必要な能力について考えたことです」などがあり、社会で必要とされる能力や知識を学習したことに関する記述がみられた。これらのことから、本グループを「社会で必要な能力や知識」と命名した。

（3）PowerPoint による発表資料の作成

第３グループでは「思う」「身に付いた」「PowerPoint」「発表資料」などの語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「パソコンが苦手なので、PowerPoint の使い方やプレゼンテーションのための発表資料の作り方が身に付いたと思います」「他者に、わかりやすく情報を伝えるための PowerPoint を使った発表資料の作り方を学びました」などがあり、PowerPoint を使った発表資料の作成方法を学んだこと

に関する記述がみられた。これらのことから、本グループを「PowerPoint による発表資料の作成」と命名した。

(4) 労働法の基礎知識

第４グループでは「学習」「労働」「基礎知識」「労働基準法」などの語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「社会で働くために必要な労働基準法など、労働に関する基礎知識を学んだことです」「労働の基礎知識の講義から、これまで知らなかった労働のルールや法律について学習し、アルバイトでも活かせると感じました」などがあり、労働に関連する法律の基礎知識を学んだことについての記述がみられた。これらのことから、本グループを「労働法の基礎知識」と命名した。

(5) 時事問題への興味と課題発見力

第５グループでは「社会」「出来事」「調査」「改善案」などの語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「社会の出来事を調査することから、課題を発見し、改善案を考える力が身に付いたと思います」「働くことに関する社会の出来事を調査したことから、社会の出来事に興味を持ち、自分から調べることが増えました」などがあり、社会の出来事に興味を持ち課題を発見し、考察することに関する記述がみられた。これらのことから、本グループを「時事問題への興味と課題発見力」と命名した。

(6) 将来への計画の立案

第６グループでは「計画」「立てる」の語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「キャリアプランという、自分が理想とする将来像のために計画を立てることの大切さを知りました」「キャリアプランの作成から、大学卒業後の自分の生き方について計画を立てたこと」などがあり、将来の働き方や生き方について具体的に計画を立てることに関する記述がみられた。これらのことから、本グループを「将来への計画の立案」と命名した。

(7) 志望職業に対する諸探索

第７グループでは「職業」「就く」の語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「自分が就きたい職業について、どのような能力が必要で、今からできることは何かなど自分と向き合うことができたと思います」「キャリアプランの作成から、自分がどのような職業に就きたいのか、将来、何がしたいのかなどを知ることができたのがよかった」など志望する職業に就くための情報探索や自己探索に関する記述がみられた。これらのことから、本グループを「志望職業に対する諸探索」と命名した。

(8) 長所・短所の自己理解

第８グループでは「長所」「短所」の語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として

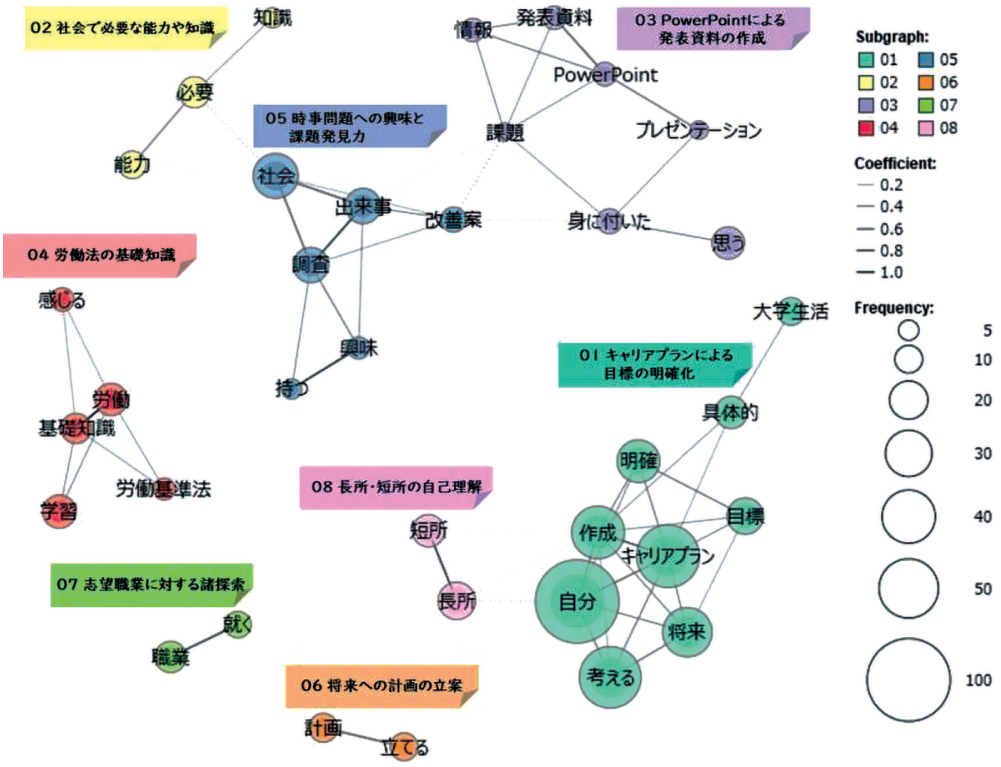

図２　本科目で学んだことの共起ネットワーク

「自分の長所や短所を理解し、具体的な将来ビジョンを考えながらキャリアプランを作成することが大切であると学習できた」「自己分析をして、自分を見直す機会があったことから、長所や短所を明確にできたことです」など自分の長所や短所が理解できたとの記述がみられた。これらのことから、本グループを「長所・短所の自己理解」と命名した。

本科目のよい点と抽出語の関係　本科目のよい点の自由記述文について共起ネットワーク分析（図３）を行った。その結果、６つのグループが検出され、それぞれの頻出語の共起関係と自由記述文のデータから以下のように命名した。

（1）複数媒体による丁寧な説明

第１グループでは「説明」「丁寧」「授業」の語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「毎回の講義動画の中で、授業課題の事例や提出方法を丁寧に説明してくださるので、非常にわかりやすい授業でした」「授業課題が講義動画や文章で丁寧に説明されており、授業に取り組みやすかったです」などがあり、講義動画、紙媒体（教科書）、電子文書（補足資料）を用いた講義が授業への取り組みや理解を促進させたことに関する記述がみられた。これらのことから、本グループを「複数媒体による丁寧な説明」と命名した。

（2）反復学習

第２グループでは「講義動画」「何度も」「見直す」「補足資料」などの語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「講義で難しいと感じた部分は、何度も講義動画を見直して確認できるところがよいと思った」「先生からのコメントや補足資料を何度もじっくりと見直すことができたことです」などがあり、講義動画など授業に関連する資料などを繰り返し確認できる利点に関する記述がみられた。これらのことから、本グループを「反復学習」と命名した。

（3）時間の有効活用

第３グループでは「都合」「有効」「活用」の語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「自分の都合のよい時間に授業課題に取り組むことができたので、時間を有効に活用できました」「大学に登校しなくてもよいため、空いた時間に他の授業課題に取り組むことができ、時間を有効に活用することができた」などがあり、授業の時間割にとらわれず自分の都合のよい時間に学習可能なことから、時間を有効活用できる利点に関する記述がみられた。これらのことから、本グループを「時間の有効活用」と命名した。

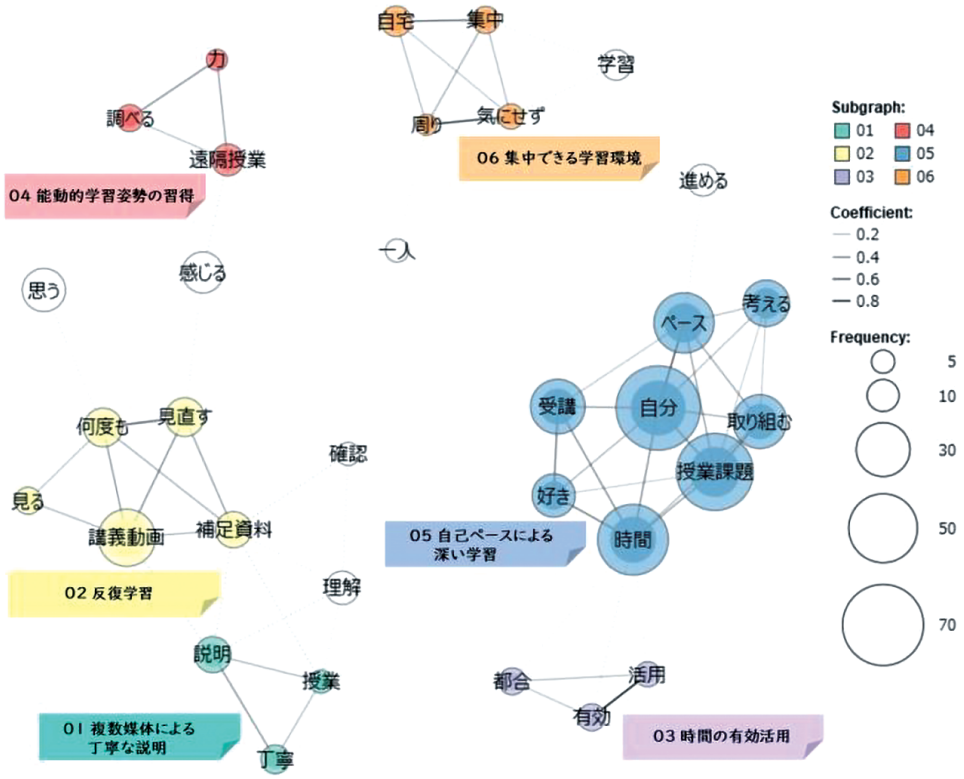

図３　本科目のよい点の共起ネットワーク

(4) 能動的学習姿勢の習得

第４グループでは「遠隔授業」「調べる」「力」の語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「遠隔授業では、わからないことがあれば自分で調べる必要があるため、調べる力が身に付いたことがよかったと感じた」「遠隔授業は、わからないことを調べながら授業課題ができることです」などがあり、遠隔授業は直ちに教員から質問の回答が得にくい環境であることやパソコンなどインターネットに接続可能な環境での学習であることから、自分で調べる行動が生起されたことに関する記述がみられた。これらのことから、本グループを「能動的学習姿勢の習得」と命名した。

(5) 自己ペースによる深い学習

第５グループでは「自分」「授業課題」「時間」「ペース」などの語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「自分のペースで進めるため、納得するまで、時間をかけて授業課題に取り組むことができた」「自分のペースで授業課題に取り組むことができたり、考えることに徹したりできる点がよいと思います」などがあり、自分のペースで深く考えながら授業課題に取り組むことができる利点についての記述がみられた。これらのことから、本グループを「自己ペースによる深い学習」と命名した。

(6) 集中できる学習環境

第６グループでは「自宅」「気にせず」「集中」「周り」の語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「自宅で周りの雰囲気を気にせず、集中して取り組むことができた」「自宅での学習は、授業課題に集中して、丁寧に取り組むことができたのでよかったです」などがあり、自宅など自分が集中できる環境で学習できる利点に関する記述がみられた。これらのことから、本グループを「集中できる学習環境」と命名した。

本科目の改善点と抽出語の関係　本科目の改善点の自由記述文について共起ネットワーク分析（図４）を行った。その結果，６つのグループが検出され，それぞれの頻出語の共起関係と自由記述文のデータから以下のように命名した。

(1) PowerPoint による課題作成の難しさ

第１グループでは「授業課題」「作成」「PowerPoint」「大変」などの語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「PowerPoint を使うことが苦手なため、授業課題を作成することが大変だった」「PowerPoint で発表資料を作るときや Word で発

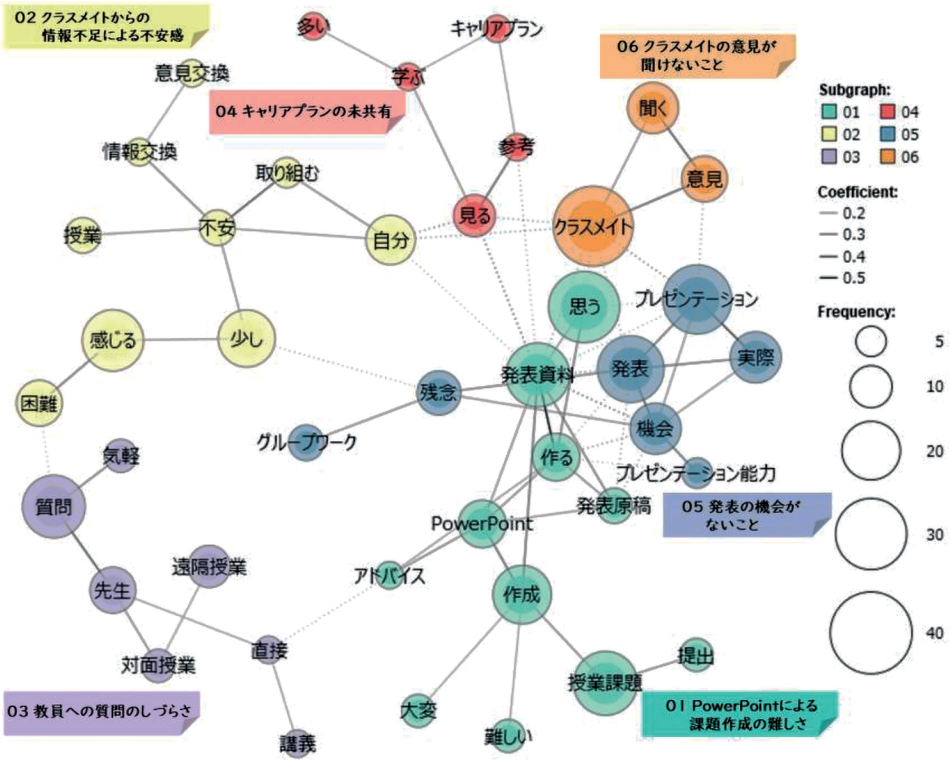

図４　本科目の改善点の共起ネットワーク

表原稿を作るときに、リアルタイムでアドバイスが欲しかった」などがあり、主として、PowerPoint を使用した授業課題作成の困難さに関する記述がみられた。これらのことから、本グループを「PowerPoint による課題作成の難しさ」と命名した。

(2) クラスメイトからの情報不足による不安感

第2グループでは「感じる」「自分」「不安」「取り組む」などの語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「クラスメイトと情報交換ができないことから、どのように授業課題に取り組んでいるのかわからず、自分の取り組みが不十分ではないか、少し不安だった」「クラスメイトと授業の情報交換ができなかったため、少し不安を感じました」などがあり、授業課題などに取り組むうえでの不安感に関する記述がみられた。これらのことから、本グループを「クラスメイトからの情報不足による不安感」と命名した。

(3) 教員への質問のしづらさ

第3グループでは「質問」「先生」「気軽」「遠隔授業」などの語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「気軽に質問できないことが困難だった」「対面授業だと気軽にその場で先生に質問しやすいですが、遠隔授業だと文章で質問をしなければならなかったことです」などがあり、遠隔授業では些細な疑問や質問が生じた際に、教員に質問しづらいことに関する記述がみられた。これらのことから、本グループを「教員への質問のしづらさ」と命名した。

(4) キャリアプランの未共有

第4グループでは「見る」「キャリアプラン」「学ぶ」「参考」などの語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「クラスメイトのキャリアプランも参考にしたかったです」「クラスメイトのキャリアプランなどについて知ることができなかったため、自分と異なる思考やアイデアを得ることができなかった」などがあり、クラスメイトとキャリアプランが共有できなかったことに関する記述がみられた。これらのことから、本グループを「キャリアプランの未共有」と命名した。

(5) 発表の機会がないこと

第5グループでは「プレゼンテーション」「発表」「実際」「機会」などの語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「プレゼンテーションなど、実際に発表する機会がなかったことからプレゼンテーション能力が向上しなかった点です」「プレゼンテーションを実際にできなかったので、発表する力が身に付けられなかったことです」などがあり、授業課題として作成した発表資料を実際に発表する機会がなかったことに関する記述がみられた。これらのことから、本グループを「発表の機会がないこと」と命名した。

(6) クラスメイトの意見が聞けないこと

第6グループでは「クラスメイト」「聞く」「意見」の語が実線でつながっていた。これらの語が表現された自由記述文として「クラスメイトの考えや意見を聞くことができなかった点です」「クラスメイトの意見を聞いたり、交流したりしながら授業課題をよいものに仕上げたかったので、それができなかったことです」などがあり、クラスメイトの意見が聞けなかったことに関する記述がみられた。これらのことから、本グループを「クラスメイトの意見が聞けないこと」と命名した。

考察

本研究は、A女子大学で遠隔授業によるキャリア教育を受講した女子大学生の感想をもとに、遠隔授業のキャリア教育を受講して学んだこと、遠隔授業のキャリア教育のよい点、改善点についてまとめてきた。本科目の到達目標は、①働くうえで必要な労働の基礎知識や個人のキャリアを取り巻く就職環境について理解すること、②課題を発見し、それを分析して、適切な計画を立ててその課題の解決策を提案すること、③自己の特徴と働く意義を理解し、多様な生き方に関するさまざまな情報を適切に取捨選択・活用しながら主体的に判断し、キャリアプランを立てることの3つであった。これらの到達目標と本科目で学んだことの共起ネットワーク分析の結果をもとに、遠隔授業によるキャリア教育の教育効果を検証した後、本科目のよい点、改善点の共起ネットワーク分析の結果から、教育効果を高めるための手がかりと遠隔授業によるキャリア教育を実践し、そこから見出された課題について考察する。

遠隔授業によるキャリア教育の教育効果　第一の到達目標である、働くうえで必要な労働の基礎知識や個人のキャリアを取り巻く就職環境について理解することに関しては、本科目で学んだこととして「社会で必要な能力や知識」「労働法の基礎知識」「志望職業に対する諸探索」の結果が得られたことから概ね達成できているのではないかと考える。働くうえで必要な労働の基礎知識が深化した要因として、講義動画による労働法の講義だけでなく、補助教材として厚生労働省（2021）を使用したことが推測される。厚生労働省（2021）は、就職を控えた学生などが働き始める前やアルバイトをする時に最低

限知っておいてほしいルールを漫画でわかりやすく解説したものであり、自由記述文にも「講義動画や漫画で描かれた資料を使って、労働の基礎知識を学習することができたと感じる」との感想が述べられており、講義動画と補助教材を組み合わせたことが労働法の基礎知識の深化に影響を与えたものと考えられる。

個人のキャリアを取り巻く就職環境についての理解が深化した要因として、働くことに関する社会の出来事について調査したことが推測される。働くことに関する社会の出来事の調査は、各々、調査テーマは異なるものの「働くことに関する」という視点は共通していることから、調査をとおして自分が社会で働くことに関連する情報や知識を得ることができたのではないかと推測する。自由記述文にも「社会の出来事を学ぶことで、自分の就きたい職業について考えるきっかけとなった」との感想が述べられていることから、働くことに関する社会の出来事の調査が個人のキャリアを取り巻く就職環境の理解の深化に影響を与えたものと考えられる。

第二の到達目標である、課題を発見し、それを分析して、適切な計画を立ててその課題の解決策を提案することについては、本科目で学んだこととして「キャリアプランによる目標の明確化」「時事問題への興味と課題発見力」の結果が得られたことから概ね達成できていると考える。その要因としては、働くことに関する社会の出来事の調査とキャリアプランの作成過程が影響を与えていると推測される。働くことに関する社会の出来事の調査では、調査テーマの決定後、そのテーマにおける問題点や改善点についても調査し、客観的な根拠を持った改善案を提案するプロセスを授業課題として課していることから到達目標の達成要因となったのではないかと考える。また、キャリアプランの作成には、自分の特徴（長所、短所、価値観など）や将来像（卒業後のなりたい自分など）から、今後の課題を発見、分析し、適切な計画を立案、実行するプロセスがあることから到達目標の達成要因になったと考えられる。

第三の到達目標である、自己の特徴と働く意義を理解し、多様な生き方に関するさまざまな情報を適切に取捨選択・活用しながら主体的に判断し、キャリアプランを立てることについては、本科目で学んだこととして「キャリアプランによる目標の明確化」「将来への計画の立案」「志望職業に対する諸探索」「長所・短所の自己理解」の結果が得られたことから概ね達成できているのではないかと考える。自己の特徴が理解できた要因としては、キャリアプランシートの作成において自己分析ができたことが考えられる。また、働く意義を理解できた要因としては、働くことに関する社会の出来事の調査や女性のキャリアデザインの講義から働くことに関する具体的な情報が得られたことが考えられる。自由記述文では「社会で働くことが、ポジティブなイメージになりました」など働く意義の変化を示す感想が述べられ、働く意義をポジティブにとらえなおしていることも教育効果であると考える。

遠隔授業によるキャリア教育の課題　本科目のよい点と改善点の共起ネットワーク分析の結果から、遠隔授業によるキャリア教育の教育効果を高める手がかりとそこから見出された課題について考察する。

本科目のよい点の共起ネットワーク分析の結果、6つのグループが検出され、その中でも「複数媒体による丁寧な説明」「反復学習」「自己ペースによる深い学習」が遠隔授業によるキャリア教育の教育効果を高める手がかりになると考える。

第一の手がかりとなるのが「複数媒体による丁寧な説明」である。本科目は対面授業の場合、科目指定の教科書のみを使用して講義を行うが、遠隔授業では各回の講義動画と科目指定の教科書、補足資料の3つの媒体を用いて授業を行った。講義動画や補足資料の作成において特に工夫した点は、授業課題の作成に使用するワークシートの使い方など受講生自身で作業を行う箇所の説明には、実際のワークシートの画像を使用して解説を行うなど視覚的かつ直感的に理解できるように工夫した。また、ワークシートの書き方の事例を補足資料として添付するなど授業課題の完成形をイメージできる工夫もあわせて行った。その結果として前出の自由記述文にも示したが、授業への取り組みや理解が促進されたとの感想が述べられていることから、動画、紙媒体、電子文書といった複数の媒体を使用することや事例を作成するなど、可能な限り受講生がイメージできる工夫をすることが教育効果を高める手がかりになると考える。

第二の手がかりとなるのが、「反復学習」である。本科目では、授業課題の小括としてPowerPointによる発表資料の作成課題を二度課していることなどから、講義内容の振り返りが必要になることを考慮し、各回の講義動画は授業期間が終了するまでLMSからいつでも視聴できるように設定していた。その結果として前出の自由記述文にも示したが、何度も講義動画を見直して確認ができる利点に関する感想が述べられていることから、受講生が必要とする情報をいつでも反復学習できる環境を整えておくことが教育効果を高める手がかりになる

と考える。

第三の手がかりとなるのが「自己ペースによる深い学習」である。本科目では毎回、授業課題が課せられるがその提出期限は１週間後に設定していた。提出期限を１週間後に設定した理由として、本科目の到達目標を達成するための授業課題である働くことに関する社会の出来事の調査やキャリアプランの立案などには、調査のための時間や自己分析のための内省時間が一定程度必要とされるからである。その結果として前出の自由記述文にも示したが、納得するまで徹底的に思索できる利点に関する感想が述べられており、授業課題の作成において一定程度の時間を設定しておくことが教育効果を高める手がかりになると考える。

次に、遠隔授業によるキャリア教育の改善点を本科目の改善点の共起ネットワーク分析から検出された６つのグループから見出し、考察する。

第一の改善点として「PowerPoint による課題作成の難しさ」である。本科目では、働くことに関する社会の出来事の調査課題とキャリアプラン作成課題の小括として、対面での発表を想定した PowerPoint での発表資料の作成を授業課題として課していた。改善点の自由記述文を見ると、スライドの見栄えなどワンランク上のスキルではなく、PowerPoint の基本操作に苦手意識を持っている傾向が読み取れることから、その改善案として講義動画や補足資料で課題作成に必要となる PowerPoint の基本操作を解説する必要があると考える。

第二の改善点は「クラスメイトからの情報不足による不安感」である。これは、授業課題の取り組み方が間違っていないかなど対面授業であれば直ちに確認できる事柄が、遠隔授業では確認することが難しいというクラスメイトとの情報共有の不足によって生じている改善点である。情報共有の不足に起因してあげられた本科目の他の改善点として「教員への質問のしづらさ」もあげられている。これらの改善案として、まず、受講生が具体的に授業課題などのどのような点に疑問や不安を感じているのかを把握する必要があると考える。そこで、LMS で受講生同士が授業に関する情報交換ができる掲示板機能を使用することで、受講生の困りごとや不安要素となる事柄の実態把握につながるだけでなく、受講生同士で支援し合いながら授業に取り組むことができるのではないかと考える。また、把握した受講生の困りごとや不安要素となる事柄は LMS の掲示板に、よくある質問とその回答としてあらかじめ提示しておくことで課題の改善につながるのではないかと考える。

第三の改善点は「キャリアプランの未共有」である。これは遠隔授業のため、各々が作成したキャリアプランを共有する機会がなく、自分のキャリアプランを再考したり、発展させたりすることができなかった、すなわち、クラスメイトからの気づきが少なかったという改善点である。作成した授業課題が共有、活用できないことに起因してあげられた本科目の他の改善点に「発表の機会がないこと」「クラスメイトの意見が聞けないこと」がある。これらの改善案として、授業計画に発表のための授業を設け、その授業回のみテレビ会議システム等を用いた同時双方向の遠隔授業を実施することが考えられる。つまり、本科目の授業計画をオンデマンド型と同時双方向型の遠隔授業を折衷的に用いたハイブリッド型の遠隔授業にすることである。

最後に、本研究において調査対象者からあげられた少数の感想を取り上げて考察する。本科目の改善点として「クラスメイトからの情報不足による不安感」「クラスメイトから意見が聞けないこと」など、授業をとおしてクラスメイトと交流ができないことがあげられた一方で、少数の感想ではあるが、本科目のよい点として「私は、将来の夢が明確でないので、クラスメイトがいると焦りを感じることから、自分のペースでじっくりと考えられたことがよかったです」「私は、他の人よりも理解できるまで時間がかかってしまうので、一人で自分のペースで学べるところが私に合っていると思いました」などクラスメイトの存在を気にすることなく、一人で受講できることを遠隔授業のメリットととらえる感想もみられた。このように、対面授業や同時双方向の遠隔授業によってクラスメイトとの情報共有や意見交換を希望する受講生が存在する一方で、個人的な理由からオンデマンド型の遠隔授業を希望する受講生も存在し、授業形態に関するニーズは多岐にわたる。このようなニーズに対応するオンライン授業の一つにハイフレックス授業がある。ハイフレックス授業とは、対面授業、同期オンライン、非同期オンラインの３つの形式を備えた授業であり、受講生はニーズに合わせて授業の形式を選択できることや対面授業が実施困難になった場合、全面的に遠隔授業に切り替えやすいというメリットを備えている。しかし、ハイフレックス授業は、実施側の教室環境の整備や対面授業とオンライン授業に参加する両方の受講生に対する配慮が必要となることなど導入にはいくつかの課題が存在する。

今後は、さまざまな授業形式によるキャリア教育を実践しながらその教育効果を検証し、実証的な研究知見を積み重ね行くことが課題であると考える。

引用文献

樋口耕一（2020）．社会調査のための計量テキスト分析―内容分析の継承と発展を目指して【第２版】―ナカニシヤ出版

厚生労働省（2021）．これってあり？～まんが知って役立つ労働法Ｑ＆Ａ～ Retrieved from https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/mangaroudouhou.html（2021.9.9）

文部科学省（2018）．第３期教育振興基本計画 Retrieved from https://www.mext.go.jp/content/1406127_002.pdf（2021.9.9）

文部科学省（2020a）．令和２年度における大学等の授業の開始等について（通知）Retrieved from https://www.mext.go.jp/content/20200324-mxt_kouhou01-000004520_4.pdf（2021.9.9）

文部科学省（2020b）．新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況（令和２年７月１日時点）Retrieved from https://www.mext.go.jp/content/20200717-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf（2021.9.9）

文部科学省（2021）．令和３年度前期の大学等における授業の実施方針等について Retrieved from https://www.mext.go.jp/content/20210702-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf（2021.9.9）

日本経済団体連合会（2021）．ポスト・コロナを見据えた新たな大学教育と産学連携の推進 Retrieved from https://www.keidanren.or.jp/policy/2021/040.html（2021.9.9）

Practice of Career Education by Distance Learning: Analysis of Impressions by Text Mining

Faculty of Liberal Arts, Department of Life Planning
Naoki TAKAMATSU

Abstract

The purposes of this study were to examine the effects of education based on the impressions of female university students who took career education by distance learning at A Women's University, to discover means of enhancing the effects of education, and to identify problems in career education by distance learning. It was found that the goals of the study subjects were largely achieved. As means of enhancing the effects of education, it was considered that different media should be used, such as lecture videos and electronic materials that allow students to form visual images, that an environment should be created where they could repeat what they learn, and that a certain amount of time should be set aside to create lesson assignments. Problems in career education through distance learning included feelings of anxiety due to lack of interaction with teachers and classmates, and lack of opportunities to learn from classmates due to no opportunities to make presentations and to hear opinions from classmates.

Keywords: distance learning, career education, educational effect, text mining